

令和6年度 第3回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 令和6年8月30日（金）

10時00分～12時00分

場所 氷上住民センター 実習室

出席者（敬称略・順不同）

○委員：杉岡秀紀会長、八尾由江委員、中川フェテレウォルク委員、赤井俊子委員、藤本理恵委員、大木玲子委員、中井昌彦委員、藤井叙人委員、小林芳晴委員、

※欠席：大野亮祐委員、畑道雄委員、足立芳史委員、荻野祐一委員

○丹波市 細見正敏副市長

（事務局）清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、垣内総合政策課政策係長、村上総合政策課政策係主査

1 開 会

2 副市長あいさつ

3 協議事項

（1）第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略の策定に向けた取り組むべき施策について

①資料の説明（地域おこし協力隊について）

（事務局説明）

②グループワークによる施策の検討（基本目標3・基本目標4）

【グループA：基本目標3 地域の魅力や人のつながりを活かして、移住・定住につなげる】

（1）丹波市で暮らしたい人や移住者が増えている

- ・様々な媒体をとおしたきめ細かい情報の発信。
- ・丹波市に暮らしている人や移住者のリアルな声を届ける取組。（暮らし方、働き方、子育て、教育、医療、副業など）
- ・丹波市の何気ない暮らしの価値に気づいてもらえるような取組。
- ・丹波市が市民・移住者にやさしいまちであるイメージ戦略。
- ・都会と田舎の時間の使い方の違いをPR。（余った時間で副業や学び→収入補填）
- ・市内のゾーニングの推進。

- (2) 丹波市に関わりたい・交流したいと思う丹波市ファンが増えている
- ・大学生が丹波市で働く人など多様な人材と関わりを持ち、丹波市を知る仕組みづくり。
- (3) 丹波市に愛着がある人が増えている
- ・丹波市ならではの特徴のPRやシンボルをつくる取組。(豊岡のコウノトリ、丹波市の恐竜など)
 - ・小学生、中学生、高校生がまちづくりに取り組み、自ら発信する仕組みづくり。
 - ・地域の人が学校と連携し、こどもたちと地域の人をつなげる取組。
 - ・障がいのある人の能力を活かせる場の拡充。
- (4) その他意見
- ・給食やアフタースクールでの安心安全な丹波市産食材を提供。(子育てにやさしいまちとしてのイメージアップ)
 - ・公共交通や医療の充実。

【グループB：基本目標4 好循環で元気なまちをつくる】

- (1) 女性や若者が地域に参画するなど多様な人材や担い手が活躍している
- ・鳳鳴高校による観光案内のように、高校生が地域に入る仕組みづくり。
 - ・女性が地域に参画しやすい取組の推進。
 - ・外国人労働者の支援に向けたコーディネーター制度の創設。
 - ・こどもたちの記憶に残るようなイベントなどの仕掛けづくり。
 - ・市民団体等が実施するイベントへのPR支援などの伴走支援。
- (2) 自分が暮らす地域の住みやすさが向上している
- ・こどもの見守りシステムの構築。
 - ・生成AIによる観光案内や窓口案内などデジタル技術の活用。
 - ・公園や野山、川など丹波市らしい資源を活かした遊び場の創出・リスト化。
 - ・こどもたちに自然を活かした遊びを提供する有償ボランティア制度。
- (3) 市外の団体や組織のノウハウを活用し、地域のにぎわいが創出されている
- ・地域おこし協力隊の有効活用。
- (4) その他
- ・移住者と地域をつなぐマッチング支援
 - ・障がい者と企業のマッチング支援。(丹波市で働きたい人が働くことができる仕組みづくり)

- ・食のデリバリーなど女性の負担軽減に向けた取組。

4 次回推進委員会開催日程

第4回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：令和6年11月ごろ

5 閉 会